

各関係機関長 様

農業技術防除センター所長

タマネギべと病の継続的な薬剤散布の徹底について

べと病については、注意報（令和3年3月4日）および対策資料（令和3年3月18日）等を発表し、注意喚起を行ってきたところですが、早生では多発生圃場が散見されています。また、中・晩生でも主要感染期に入り、一部圃場で発生が急増しています。ついては、本病をまん延させないために、下記を参考に、継続的な薬剤散布の徹底について、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況

- (1)令和3年4月2～5日に、県内のマルチ栽培10圃場（早生品種）を調査した結果、べと病の平均発生株率は38.0%で、前回調査から急増しており、平年よりやや多かった（表1）。
- (2)同日に、露地栽培10圃場（中・晩生品種主体）を調査した結果、平均発生株率は17.0%と、前回調査から増加しており、平年並であった（表2）。
- (3)発生程度には圃場間で差が大きく、一部で多発生した圃場を確認した（表1、2）。



写真 露地栽培圃場の二次感染株
（令和3年4月5日撮影）

表1 マルチ栽培圃場でのべと病の発生状況

圃場		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	10圃場平均	
												本年	平年
発生株率 (%)	3月下旬	0.3	4	2	4	2	10	13	2	2	0	4.0	1.2
	4月上旬	36	26	48	36	10	8	94	98	0	24	38.0	22.3

表2 露地栽培圃場でのべと病の発生状況

圃場		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	10圃場平均	
												本年	平年
発生株率 (%)	3月下旬	0.5	4	2	1	0.1	0	4	0	0.2	0	1.2	0.7
	4月上旬	13	44	41	34	24	0.1	14	0	0	0.1	17.0	17.2

注）発生株率は、一次感染株（越年罹病株）と二次感染株の合算値。一次感染株は2000株調査、二次感染株は50株調査。

2. 気象推移に基づく今後の発生予想

【これまでの状況】

- ・気象解析の結果、本病の感染・準感染好適気象条件が3月13～14日、17～21日頃に出現した。主にこれらの時期の感染が、約2週間の潜伏期間を経て、3月下旬以降の発病の増加につながったと考えられる。

【今後の予想】

- ・感染・準感染好適気象条件が3月28～29日頃にも出現したことから、約2週間の潜伏期間を経て、今後、発病が増加する可能性がある。
- ・3月に引き続き、4月も本病の主要な感染期である。福岡管区気象台が4月1日に発表した九州北部地方の1か月予報では、降水量はほぼ平年並であるものの、天気は数日の周期で変わると予想されている。このため、感染に好適な曇雨天が出現した場合は、さらなる感染が助長されると予想される。

3. 防除対策

最新の気象予報や図1を参考に、引き続き、継続的な薬剤散布を徹底する。防除対策の詳細については、令和3年3月4日付け病害虫発生予察注意報第5号(タマネギべと病)を参照する。

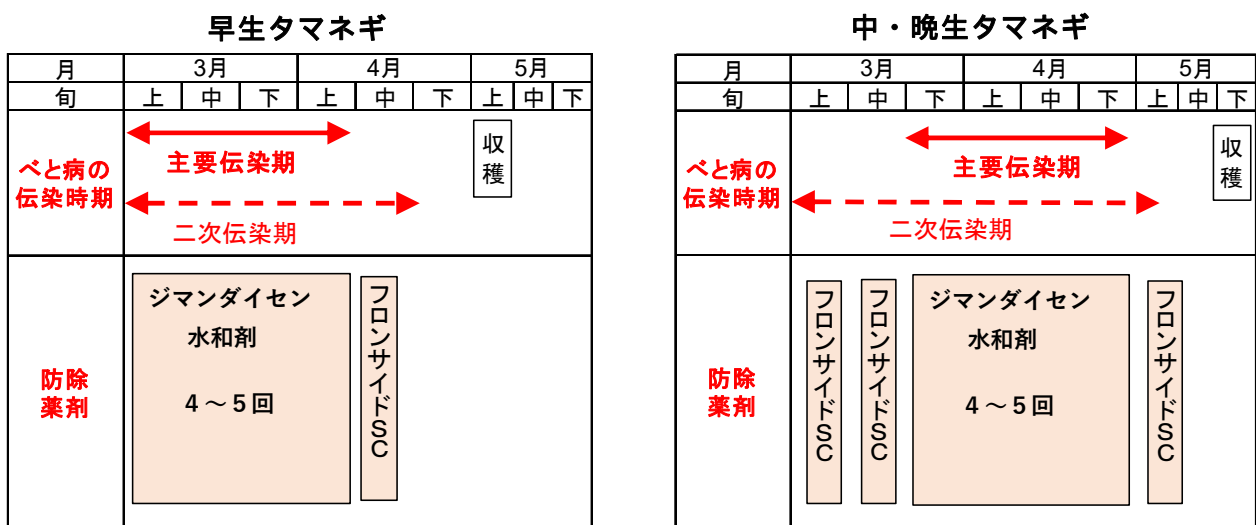


図1 タマネギべと病の伝染時期と薬剤防除体系

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5042

